

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 全国英語教育研究団体連合会

(代表者 中村 勝徳 会員数 約60,000人)

T E L 03-3267-8583

#### 1 前 文

今年の共通テストも昨年度までの形式・難易度を踏襲した出題となり、大きな変更点はなかった。今年度も、「知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力等を發揮して解くことが求められる問題を重視する」という共通テストの問題作成方針がしっかりと反映されたものであったと言える。

2024年度の大学入学共通テストにおけるリスニング受験者数は前年度の464,931人からは若干減少し、本試験と追・再試験を合わせ448,694人だった。教科選択率は昨年度と変わらず98.1%となっており、英語の成績が文系理系を問わず全ての受験者の大学合否に大きく関与していることがうかがえる。本試験の平均点は、一昨年度が59.45点、昨年度は62.35点、今年度の平均点は67.24点であり、前年度よりも4.89点上昇した。内容に大きな変更が見られなかったこと、また、受験者がしっかりと事前に準備ができるようになったことが要因であると考えられるが、共通テスト実施4年目で、それぞれの問題が成熟してきたことも大きいと考えられる。結果、全体の難易度についてはやや易化したと言える。本試験で読み上げられた英語の総語数は約1,570語（昨年度は約1,541語）でほぼ変わらず、設問と選択肢の総語数は約700語であった。

#### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

大問	配点	マーク数	出題内容	読み上げ回数
1	25	4	A : 短文内容一致問題	2
		3	B : 短文イラスト問題	
2	16	4	対話文イラスト問題	1
3	18	6	対話文選択問題	
4	12	8	A : モノローグ図表並べ替え・図表完成問題	1
		1	B : 複数のモノローグ選択問題	
5	15	7	講義内容選択問題	1
6	14	2	A : 対話文（2者）選択問題	
		2	B : 対話文（4者）選択問題	
合計	100	37		

出題形式、配点、読み上げ回数については、今年も変化はなかった。内容面で、イラストやグラフ、表が数多く使用されており、単純な英語の聞き取りに加えて場面や目的に応じた思考力・判断力が問われることや、話者についてはアメリカ人話者やイギリス人話者だけではなく、日本人と思われる非ネイティブ話者など多様な話者が含まれていた部分も昨年度までと同様であった。また、課題となっていた各問の解答時間については、実際の時間に昨年度からの大きな変化は認められなかったが、設問の内容や難易度のためにかなり余裕をもって取り組める構成であったと言える。

第1問 短い発話を聞いて、内容に関する選択肢を選ぶ問い。Aは短い発話（いずれも2文）を聞

き取り、その内容と最も合致する選択肢を選ぶ問題である。状況を要約したり、発話から推測できることを判断する力が求められている。Bは短い発話を聞いて、設問で求められる内容に合致する絵を選ぶ問題であり、内容を正確に把握する力が問われた。発話の長さにより、問い合わせの難易度に若干の違いがあるが、総じて標準的な難易度であったと言える。

問1 「甘いものを食べたいのならアメではなくバナナにしなさい」という発言から the speaker の助言の内容を理解する問題。

問2 「今会議が始まる。午後2時に終わるのでそのあと電話してくれるか」という発言から the speaker の状況を理解する問題。

問3 「空が晴れてきた。やっと家に帰れる。」という発言から、the speaker の状況を理解する問題。

問4 「先週盗まれた Laura の自転車が今朝見つかった」という発言内容を描写した選択肢を選ぶ問題。いつ、誰が、何をという3つの要素を的確に理解する必要があり、良問。

問5 「新しい絵は窓と同じくらい大きい」という発言と合致するイラストを選ぶ問題。比較の原級表現が聞き取れれば平易。

問6 「縞模様も丸もない財布がよい」という発言と合致するイラストを選ぶ問題。

問7 「エマは服の片付けとベッドメイクが終わり、宿題を始めている」という発言と合致するイラストを選ぶ問題。

第2問 短い対話を聞き、設間に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で場面の情報が示されているのは昨年までと同様であり、短い時間の中で場面に応じた聞き取りが必要となる。与えられた場面の説明とイラストはいずれの問題でも非常に分かりやすく、受験者も問題の趣旨をしっかりと踏まえて解答できたと思われる。

問8 面接に着ていくのにふさわしいシャツを選ぶ問題。one with a collar から襟付きのものを選ぶ。

問9 対話の内容から誰が100m走で勝つと考えているのかを選ぶ問題。帽子の向き、眼鏡、シャツの色と順番に聞き取る。人の特徴だけを列挙していくが、実際の会話としてもこのような展開はよくあるものであり、好ましい問題。

問10 対話の内容から Yuki の現在の様子を選ぶ問題。

問11 対話の内容から男性の場所を選ぶ問題。前置詞 across の理解が必要となる。地図上の位置を聞き取るオーソドックスな問題だが、日常生活でも場所を説明するという行為はよくある。

第3問 短い対話を聞き、設間に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。第2問と同様に、日本語で示されている場面の情報を把握し、概要や要点を目的に応じて把握する力が問われている。本問より音声は1回しか流れないが、一方で問い合わせを事前に読むことができるため、対話から聞き取るべき内容をある程度予測することができる。

問12 対話の内容から the man が買うと思われる雨具を答える問題。They're so bright! 以降のやり取りから黒のレインコートを購入すると考えられる。

問13 対話の内容から子犬の様子を答える問題。Playful という語は受験者にとっては聞き慣れないものであるが、その意味は分かりやすい。

問14 対話の内容から次に起こるであろうことを答える問題。誰が、何をするということを的確に捉える必要がある。

問15 対話の内容から the mother がとるであろう行動を答える問題。

問16 女性が男性を散歩に誘う内容の対話。散歩のコースと昼食をとるタイミングを理解して内容の合致する選択肢を選ぶ必要があるが、walk through や the other side of the park など

の表現から全体像をつかまねばならず、難易度は高い。

問 17 対話の内容から the man が次にとるであろう行動を答える問題。最後の発言からすぐに出掛けることが分かる。

第4問 Aは読まれる説明を聞き、図表を見ながら空所を埋めていく問題。今年は本試験と同様に、一昨年度出題されたイラストを時系列に並べる問題が再び扱われた。Bでは、四人の話者の説明を聞き、示されたスケジュールに合致する選択肢を選ぶ問題。複数の情報を聞き、情報を比較しながら思考する力が問われている。聞き取った内容と資料を結び付けて考えさせる問題は、日々の授業運営にも好ましい影響を与えるものであり、今後も継続が望まれる。複合的な作業が求められ、問題の難易度は高いが、今年の問題では作業の複雑さではなく、発言内容とそれをパラフレーズした選択肢を一致させる部分での難しさであり、このような作問はむしろ望ましいものであると考える。

問 18~21 健康診断についての説明を聞き、受診するべき順番に沿ってイラストを並べる問題。

順番を示すシグナルに当たる語が必ずしも文頭には来ていないことや、“but”, “this is also different from usual”などの語句に続いてイレギュラーな指示が出される点などに戸惑う受験者もいたかもしれない。

問 22~25 新入生対象オリエンテーションでの説明を聞き、表の空欄に適切な選択肢を選ぶ問題。聞き取るべき情報がランダムに流れてくるため、問題の難易度は高い。

問 26 参加するボランティア活動を決めるに当たり、条件に合うものを聞き取る問題。正答となる senior center については、働く日と時間がオプションで選べることで、示された条件に合うということを理解するのに難を感じる受験者もいたかもしれない。

第5問 「農業用ロボット」についての講義を聞き、設間に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。ワークシートとして示されているものを活用しながらノートテイクする技術が求められる。扱われたトピックも、取り組みやすいものであったと考える。

問 27 ワークシートの空欄に適切な選択肢を選ぶ問題。パラフレーズが行われているが標準的な難易度である。

問 28~31 ワークシート後半の表に適切な選択肢を選ぶ問題。類義語の知識が問われている部分もあるが、内容の理解は平易である。

問 32 講義の内容と一致する選択肢を選ぶ問題。

問 33 与えられた図と講義全体の内容から言えることを選ぶ問題。図と選択肢の正確な読み取りができれば正解できる内容であり、リスニングの問題としては改善の余地がある。ただし、解答時間は短めであることから、問題の難易度は高めであると言える。

第6問 Aは「留学生の歓迎会について」の二人の会話を聞き、設間に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。話者の発話の要点を把握する力が問われている。Bは「飛行機に乗る際の預け入れ荷物について」話し合う四人の学生の会話を聞き取り、設間に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。それぞれの話者の賛否の立場を正確に把握し、意見の根拠となる図表を判断する力が問われた。話者の声や英語にそれぞれ特徴があり、発話の際に名前を呼び掛けることで誰に対しての発言なのか分かりやすく、配慮が感じられた。また、話者の一人 (Kyoko) は日本人であるように聞こえる。

問 34 話者の一人 (Sophie) が会話中に示した意見を選ぶ問題。

問 35 二人の話者が同意した内容を選ぶ問題。標準的な難易度。

問 36 最終的に今回荷物を預け入れないことに決めた人を選択肢から選ぶ問題。

問 37 Barry の考えの根拠となる図表を選択肢から選ぶ問題。

### 3 総評・まとめ

ここまで2024年度（令和6年度）共通テスト「英語（リスニング）」（追・再試験）について検討してきた。ある技能に特化するのではなく、統合的な言語活動の下に生まれる場面が共通テストで取り上げられることによる教育現場への正の波及効果については引き続き期待できる部分である。扱われているトピックの選定や1つ1つの発話や対話の場面設定などにかなりの創意工夫と改善が感じられ、作間に当たってのご苦労が拝察されるところである。また、本試験との難易度の差異もなく、受験者の公平性が担保された問題であったと言える。

### 4 今後の共通テストへの要望

報告書（本試験）の方に記載。